

2019春季生活闘争

J R 連 合 F A X ニ ュ ー ス

No. 39

2019年3月5日

日本鉄道労働組合連合会

JREユニオン 第1回団体交渉

## 6年連続のベア獲得をめざし

### 労使交渉でスタンスを訴えることがあるべき形 働く意欲を感じられる会社であることが重要

JREユニオンは、3月4日、2019春季生活闘争の申入れ 申4号「賃金引き上げに関する申入れ」（2月12日提出）の第1回団体交渉を開催し、要求の趣旨説明をおこなった。

JREユニオンからは、「実質賃金が物価上昇に追いついていない」「消費増の増税が予定され、先行きの不安が増している」「日本最大の鉄道事業者である当社があるべき姿勢を示すことが大事」等の考え方を示した。

また、「私たち労働組合は、労使交渉といった場で、その立場のスタンスを訴えることが重要であり、あるべき姿であると思っている。労使は対立だけではない。春闘交渉については、そうした議論が重要であり、あるべき形ではないか」と、あるべき形を創造しようとの認識を主張した。

「あるべき労働組合像・あるべき労使関係像」に基づき、労働組合の存在意義を訴えるとともに、イースト春闘を一丸となって取り組むとしている。